

9.28.緊急アピール賛同者のお名前、人数、コメント

2020年9月28日（月）正午に公開した緊急アピールに対して数多くの賛同の声をいただきました。まことにありがとうございました。

10月1日（木）20時点で締め切り、最終的に賛同いただいた方のお名前や人数、そして寄せられたご意見の一部を公表いたします。

408名の教職員、学生のみなさまのお名前や声はバラバラではありません。たがいに結びついてウェブとなり、キャンパスの文化的土壌を汚染から救う菌糸の役割を果たすことでしょう。

2020年10月1日

東京大学教員有志

代表 田中 純（総合文化研究科）

阿部公彦（人文社会系研究科）

佐倉 統（情報学環）

清水晶子（総合文化研究科）

水越 伸（情報学環）

山田広昭（総合文化研究科）

教員（特任、非常勤、名誉教授等の方を含む）

増田 一夫	教養学部
高橋英海	総合文化研究科
韓 燕麗	総合文化研究科
木宮正史	大学院総合文化研究科
大石紀一郎	総合文化研究科
國分功一郎	総合文化研究科
杉山 清彦	総合文化研究科
伊藤たかね	総合文化研究科
鈴木淳	人文社会系研究科
村上克尚	総合文化研究科
中尾まさみ	総合文化研究科
寺田寅彦	総合文化研究科
井上博之	総合文化研究科
大関洋平	総合文化研究科

トム・ガリー	総合文化研究科・教養学部
山崎彩	総合文化研究科
土屋和代	総合文化研究科
中村高康	教育学研究科
久留島典子	史料編纂所
アルヴィ 宮本なほ子	総合文化研究科
富田耕造	新領域創成科学研究科
伊藤徳也	総合文化研究科
井上純一郎	医科学研究所
村上祐介	教育学研究科
四本裕子	総合文化研究科
河合祥一郎	総合文化研究科超域文化科学専攻
加治屋健司	総合文化研究科
一條麻美子	総合文化研究科 超域文化科学専攻
鈴木 泉	人文社会系研究科
高橋哲哉	総合文化研究科
桑田光平	総合文化研究科
廣野喜幸	情報学環
渡邊淳也	総合文化研究科
野島（加藤）陽子	人文社会系研究科 文学部
阿古智子	総合文化研究科（国際社会専攻）
後藤由季子	薬学部
オデイ ジョン	総合文化研究科
竹峰義和	総合文化研究科
高橋元貴	工学系研究科
板津木綿子	総合文化研究科
古莊 真敬	大学院総合文化研究科
大宮勘一郎	人文社会系研究科
小林宜子	総合文化研究科
池谷裕二	薬学系研究科
本田由紀	教育学研究科

岡田猛	教育学研究科
森元庸介	総合文化研究科
北川大樹	薬学系研究科
中村雄祐	人文社会系研究科
ドゥヴォス・パトリック	総合文化研究科
沖本幸子	総合文化研究科
三浦正幸	薬学部
佐藤光	総合文化研究科
石田勇治	総合文化研究科
村山 英晶	新領域創成科学研究科
高見澤 磨	東洋文化研究所
遠藤基郎	史料編纂所
菊地大樹	史料編纂所
古井龍介	東洋文化研究所
泊 幸秀	定量生命科学研究科
エリス俊子	総合文化研究科
溝口勝	農学生命科学研究科
山口英男	史料編纂所
石田英敬	情報学環
米村滋人	大学院法学政治学研究科
カペル・マチュ	総合文化研究科
針生 悦子	教育学研究科
小島宏建	創薬機構
大石和欣	東京大学大学院総合文化研究科
加藤恒昭	総合文化研究科
小口 高	空間情報科学研究センター
斉藤 渉	総合文化研究科／教養学部
伊藤洋一	法学部
唐津恵一	法学政治学研究科
田島 公	史料編纂所
福田 健二	農学生命科学研究科

名和克郎	情報学環
大串 和雄	法学部・大学院法学政治学研究科
熊谷朝臣	大学院農学生命科学研究科
宇佐美洋	総合文化研究科
山家浩樹	史料編纂所
鴨田重裕	農学生命科学研究科
齋藤希史	人文社会系研究科
苅部 直	法学部
小島克己	アジア生物資源環境研究センター
鮎川ばて	教養学部
藤岡俊博	総合文化研究科
岡田由紀	定量生命科学研究科
瀧川仁	物性研究所
山本浩司	経済学部
広瀬友紀	総合文化研究科言語情報科学専攻
堀江宗正	人文社会系研究科
額賀美紗子	教育学研究科
仁多見俊夫	農学生命科学研究科
石橋整司	大学院農学生命科学研究科
小松美彦	人文社会系研究科
斎藤 毅	数理科学研究科
秦邦生	総合文化研究科
渡辺 美季	総合文化研究科
増田 建	総合文化研究科
上原 究一	東洋文化研究所
仁平典宏	教育学研究科
浅井幸子	教育学研究科
高木 紀久子	総合文化研究科
渡辺優	人文社会系研究科
乗松亨平	総合文化研究科
武田将明	総合文化研究科

関谷 雄一	総合文化研究科
伊達聖伸	総合文化研究科
鳥山祐介	総合文化研究科
岩本通弥	総合文化研究科
塩川伸明	法学政治学研究科
柳原孝敦	人文社会系研究科
梶谷真司	総合文化研究科
中村仁彦	工学系研究科 特任研究員、名誉教授
天内大樹	
長木誠司	
縫田 光司	
山口 泰	
露木 聡	
合計	120名
その他	75名
教員合計	195名
職員（特任、非常勤の方等を含む）	
原瑠璃彦	総合文化研究科
水内 翔太郎	法学政治学研究科等
合計	2名
その他	26名
職員合計	28名
学生（大学院生、研究生等を含む）	
小林 鷹義	文学部
三ツ木紀英	学際情報学府
山崎 恭平	総合文化研究科
宇田川敦史	学際情報学府

長屋健太郎	教養学部
小俣海斗	教育学研究科
半田 颯哉	学際情報学府
神谷説子	学際情報学府
沓名海斗	前期教養学部
平野 咲雪	総合文化研究科
八十島士希	教養学部
箕輪創太	教養学部
南佑樹	工学部
桐谷詩絵音	人文社会系研究科
柴田 峻太郎	人文社会系研究科
大月希望	学際情報学府
前田春香	学際情報学府
岡俊一郎	総合文化研究科
伊藤連	総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論
上野 祥	総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程
吉野良祐	工学系研究科
大野康晴	東京大学教養学部学際科学科
劉哲男	薬学部
原田拓夢	教育学研究科
川越 紗	薬学系研究科
大島一貴	文学部
岡田大典	
阿部 啓	総合文化研究科
鈴木亘	人文社会系研究科
井原陸朗	総合文化研究科
奥村理絵	総合文化研究科
尾上竜馬	文学部
桑原恭兵	理学系研究科
木下紗耶子	総合文化研究科
作田力輝	教養学部

志波英明	文科Ⅲ類
向井穂乃花	工学系研究科
舟橋壮真	工学系研究科
一之瀬ちひろ	
端希子	教養学部
木村悠之介	人文社会系研究科
日隈脩一郎	大学院教育学研究科
平野 秀大	教養学部前期課程
古俣めぐみ	総合文化研究科
笹本康太	経済学部
松野大河	教養学部
羽生有希	
鈴木実香子	総合文化研究科
米田羅生	教養学部理科二類
田村賢哉	学際情報学府文化人間情報学
ヒューズ由美	学際情報学府
キョセゴウ	
菊池凜	
長谷川浩輝	
笠井健太郎	
磯部伸	
QI WANG	
井原龍一	
伊東健一	
合計	59名
その他	126名
学生合計	185名
総計	408名

東大総長選挙2020について一言

選考委員会においてきわめて不自然な決定がなされており、このまま進むと大きな禍根を残すことになります。いったんリセットして、日本を代表する大学にふさわしい公平な手順で総長選をやりなおすべきです。

世界に恥じない東大総長選考を！

やはり、本当に不透明なプロセスの中で行われているので、透明性を確保したうえで、やり直していただきたいと思います。

今回の選考の問題について第三者委員会により検討した上で、プロセスの手続き的正当性や可能な限り透明な公開性を確保して選考をやり直すべきである。

総長選考会議は何をしているのでしょうか？

今回の選考に関してはリセットすべきと思う。

将来的には国立大学法人法の改正が必要であるが、まずは東大から総長選考の適切なあり方を発信すべきである。

公明正大な選考を望みます

透明性の確保とフェアであるという基本を守ってほしい。

疑念がこれほど広がっている以上、強引に押し切っても禍根を残すだけです。

緊急アピールに同意します。

恥ずかしながら、今まで総長選考会議の役割と権限を正確に理解していなかったのですが、今回の選考過程で浮上した選考体制のゆがみ、瑕疵などを見て、抜本的な体制の改革が必要になると思います。今回はF氏に投票することでは、何も変わりませんし、6年後にもっとひどくなる可能性が高いでしょう。取りあえず即時延期しかありません。署名活動でそれが可能になるのでしょうか。

全学構成員の意向を尊重する姿勢で臨まないと東大の学問が痩せ細ってしまいます。

なぜこのように質問状や要望書が出される事態になったのか、本学は、冷静に検証し、社会に向けて説明する必要があると思います。

第二次候補者氏名・経歴等を学外に公表しないのは、選考の透明性の観点から大きな問題があると思います。加えて、選考の過程を社会に明示することは、大学運営に対する社会の関心を喚起し、ときには批判的な目を向けられながらも真に”よきサポーター”を獲得してゆく上で、大きな効果があると思います。

大学の自治を守るためにも、選考過程を一からやり直した上、二度とこのようなことが起きぬよう、選考会議議長には相応の責任を取っていただくのが妥当と考えます。

今回は文科系総長だと思っていたので、不透明な選考プロセスに抗議します。大学自治が失われていくことに危機を感じます。

今回起っているのは東大の歴史のなかでも大きな危機となる可能性があるので大変憂慮している。小宮山さんはもう一度考え直した方がよい。

公正に選考が進められていることを信じたいですが、疑義を呈するご意見が多数出されています。一旦プロセスを止め、大多数の方が納得のいく選考にして欲しいです。

選考会議の選考過程は、総長選考のプロセスとして大きな瑕疵があると考えている。選考会議のメンバー、とりわけ一連の問題と選考を統括した議長の責任は重いと判断します。

東大は総合大学であるにもかかわらず、今回の候補者が医学部名誉教授の他、2名がいずれも工学系と著しく多様に乏しいのを憂慮しています。

大変かもしれませんが、一旦、延期していただき、説明及び議論を尽くしてたいと思います。

丁寧に説明を尽くし、公明正大な方法で選考すべきだと思います。

今回の総長選で、東大も権力をめぐるマニピュレーションが横行する三流大学に成り下がったかとがっかりしました。誇りを持てる大学を取り戻したい。

アピールの内容すべてに完全に賛同するものではないが、9/7選考会議における選考の妥当性に疑問点が指摘されている以上、意向投票は延期すべきと判断する。

疑義アリと声を上げる有志の皆さまがいなければ、知らずに過ぎてしまったと思います。開かれた総長選と開かれた大学を望みます。

今回の総長選考過程の不透明性、閉鎖性については強い不信感を覚えます。議長からの回答文を読んでもモヤモヤが増すばかりです。誰もが納得する公正な手続きを経ないまま投票を決行することは民主主義への冒涇だと思います。

下手な大学ドラマではあるまいし、選考過程に禍根を残すようなことは避けるべきですね。

恥ずかしながら、今まで総長選考会議の役割と権限を正確に理解していなかったのですが、今回の選考過程で浮上した選考体制のゆがみ、瑕疵などを見て、抜本的な体制の改革が必要になると思います。今回はF氏に投票することでは、何も変わりませんし、6年後にもっとひどくなる可能性が高いでしょう。取りあえず即時延期しかありません。署名活動でそれが可能になるのでしょうか。

これだけ問題視されているのに、まさか予定通りの投票を強行して来るとは思いませんでした。

東京大学総長選考のプロセスに関し、透明性と公平性を求めます。

総長選考会議のあり方に強い疑念を抱いております。選考過程の公平性と透明性の確保を第一に、然るべき改革を望みます。大学の自治が、特定少数の権力者、また政財界の論理に左右されるようなことがあってはなりません。

意向投票の結果が尊重されることはもちろん、結果がどうであろうと選考過程の公開と、不備があればやり直しも含む適切な対応を望みます。

風通しの良い校内行政を祈っております。

あとは良識を信じます。

透明性があって公平な選挙を求めます。

研究・教育の場は、市場化の試験場ではありません

やはり透明性が確保されない選挙はいやです

意向投票とかのためにA1タームの授業日を3週間前にいきなり代替日なしに全学一斉休講を強いるような横暴はあり得ません。

陰謀論に陥らないよう状況を注視しておりましたが、それでもなお現行の選考の進み方を見ると結論ありきの出来レースなのではないかという疑念が拭い切れません。社会の付託を受けて学術研究と教育を行う場として、大学にとって社会との連携が非常に重要であるということには些かも異議はありませんが、産業・経済・政治等の各界からの過度の介入は何としても避けるべきであると考えます。今回の総長選考は、そのプロセスが透明性を欠き十分な説明を果たしていないことをはじめとしてこのような介入の意図が見え隠れしているように思います。本学の職員として、また一卒業生として、今後の本学のあり方を、悪い方に、不可逆に傾けうる現行の総長選考の手法には、危機感を覚えざるを得ません。

学生としてもこのような十分に民主的とはいえない環境の下で学んでゆくことに不安があります。

不透明な東大総長選の独断的な実施に反対します。

総長選考に学内だけでなく学外からの多様な意見を取り入れることは、とても良いことだと思います。ただ、その学内外の多様な人たちがより納得するようなプロセスを経ないと、多様な意見を取り入れる意味は薄く、今回のような対立を生むことになってしまうと思います。総長選考にかかわる人たちは全員この東京大学をより良くしたいと思っている点では同じだと信じているので、より多くの人々が納得できるように努めてほしいです。

総長選考会議の権限強化とブラックボックス化は、今回の選考のみならず将来にわたって恣意性が入り込む余地が大きく、容認すべきではないと考える

誰もが納得できる透明なプロセスのもとで総長選考を行ってほしい。現状はどう考えてもおかしい！

今回の件は、総長選考会議が暴走しているのではなく、「本来与えられた役割」を果たしているにすぎないと思います。ならば総長選考会議は廃止するしかありません。

今回の総長選考がどのような過程を経ているのかが全く不透明であり、かつ総長選考の基準が民主性と多様性を確保しているとは言えないものに変えられていることに、東京大学の学生として強い不安と疑問を感じております。学内政治は学生の研究環境はもちろんのこと、生活基盤をも左右する力を持っています。その上で、総長選考が民主的に、透明に、そしてインクルーシブに行われることは、すべての教職員と学生の権利が守られるための最低限の必須条件ではないでしょうか。今後も学生が東京大学で研究に専心することができるよう、意向投票の即時延期と、選考過程の公開と候補者の多様性の確保、そして総長選考基準を以前のものに戻すことを、強く求めます。東京大学当局が良識ある大学運営を行うであろうことを、私は現時点ではまだ信じております。どうか良心にしたがって、今回の総長選考の見直しをご決断ください。

公平な選挙が行われることを望みます。大勢が納得できないまま次期総長が選出されることは避けなければいけないと思います。

声をあげられた方々一人一人に敬意を示します。総長の選考によって、学生である私達が東京大学で過ごす時間の持つ意味が大きく変わりうると考えています。だからこそ、公正な形で総長が選考されることを望みます。

様々な立場の方々から疑義があがるなか、東京大学総長選考会議および東京大学総長は、個々の疑義に誠実に回答するべきだと考えます。これまでも公開質問状に対する回答が行われてきましたが、これらは誠実なものではなかったと考えます。誠実な回答を行い、その回答に依って改めて議論を行うためには、9月30日の午後までという時間は、あまりに限られていると考えます。意向投票の延期など、即時かつ具体的な措置が必要だと考えます。

適正なプロセスでは実現できない改革は、不正な改革です。

透明性の確保、ならびに自然科学分野と人文学・社会科学分野のバランスの確保、そして女性（ないし非男性）の教職員も候補に名を連ねられるような学長選考過程を確保してほしい。

総長選考会議というブラックボックスを放置することは、学問と自由を追究する大学の存在意義さえも揺るがす事態だと考えます。

選考プロセスの透明性確保を求めます。考えたくはありませんが、総長選考自体がslippery slopeを滑り落ちようとしているように思えてなりません。ブラックボックスの中で行われた「討議」により選出された総長が東京大学を代表する人物となることに危機感を覚えます。私どもは、そもそも総長選考会議にて討議が行われているかどうかすら確証を持ち得ていないのです。総長選考会議を信頼せよと仰るのならば、再三言われているように情報開示と第三者による公平性の確認をするべきではないでしょうか。

恣意的な判断が許される不透明な選考は民主主義における主体性のあるべき姿ではないと考えます。開かれた公正な選考が行われることを一学生として切に願っています。

透明性のある運営を求めます。

透明性の高い、公平、公正な選考をしていただきたいです。

疑問の声が上がっているなかで投票を強行することに反対し、透明性と公平性の確保を求めます。

仄聞したところ、今回の総長選は今後の大学のあり方にも大きく影響するように思われます。改革を行うのであれば、いや改革を行うからこそ開かれた場における徹底的な議論が必要なはずです。今後の東京大学、ひいては日本の大学のあり方を考えるにあたり重要な役割を担う東京大学総長の選挙が、公明正大に行われることを切に願っております。

今回、学内に留まらず全国メディア含め総長選考が問題となりました。私が思うのは、この問題は決して今回の総長選考だけがこんにち問題になったのではなく、国立大学法人化に伴う教授会自治破壊・経営協議会独裁体制という日本の文教政策あってのことで、改めて04年以来の法人化体制、そして現在の『国立大学法人の戦略的経営実現のための検討会議』に象徴される大学改革路線の犯罪性が明らかになり、全社会的に暴露されるに至ったということです。地方大学などでは既に意向投票ガン無視だったり、あるいはそもそも意向投票をやらなかったりというレベルにまでなったこの政策、推進してきた政府・財界はさも社会に開かれた総長選考にするかの如き口ぶりでしたが蓋を開けてみればこのザマです。"会社"（経営者）には開かれたのかもしれませんが、結局は力の強いところが推す人が通ります。金のない文系学部出身者、女性など社会的差別を受けている人には開かれていない、ブラックボックスに他なりません。総長選考以外の大学運営全体も同様です。法人化以降ガバナンス強化が叫ばれ経営協議会は過半数が学外者ですが、その経営協議会とは経営に関すること、つまり金のかかることほぼ全部の決定に影響力を持つ以上、大学自治も学内民主主義もあったものじゃありません。麻生太郎も「目標・計画の設定や定期的な業績評価といった仕組みを通じて国の意思を法人運営に反映させうる法人制度」を目標にしていると公言しています。政府や財界が長年大学をいいなりにさせる政策をやってきたことの結果です。そういう意味でポストドク問題、雇い止め問題、競争的資金制度や非人道的な研究室（いわゆる「ブラック研究室」）の問題とも同根であると思っています。今こそ、法人化に異議ありと言いたい。奴隷の道を拒否しよう。私も学生として頑張ります。ありえん長文になってしまいごめんなさい。

大学の自治、学問の自律性を最大限尊重する判断がくだされることを強く望みます

これからも東大で学生として学問を学んでいく上で、体制の透明性が保証されないことはあまりにも不安です。公平公正な民主的プロセスを妨げるものなど何も無いはずです。私が尊敬する東京大学の、その先生方の勇気あるご決断を心待ちにしています。

我が国の学問を代表する機関として恥じるところないよう、十全にアカウンタビリティを果たしていただきたい。

有志の皆様の行動に深い敬意を評します。一刻も早く、公明正大な大学の自治が取り戻されることを希望します。

公正な選考を求めます。

意向投票当日となってしまいましたが、緊急アピールの理念に賛同いたします。

東大に限った話ではないが、総長選考の不透明性は問題ではないだろうか。また、大学としての多様性を高めていくことが今後望まれる中、本件のように選考会議の独断で総長選考を進め、学内の意見が反映されていないということに多大なる危機感を覚えた。日本、ひいては世界を牽引する立場にあるという自覚を持っていただきたい。早急に見直しを求める。末筆ではありますが、立ち上がってくださった教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

候補者選定プロセスの公平性・透明性の確保は最重要であるとともに最低限の条件であると考えますが、それが全く達成されておらず、公開質問状への一連の回答も不十分だと感じます。さらに（特に第二次候補者の選考における）候補者の多様性の確保も、もはや基本的な義務であるにもかかわらず全くそれが果たされていません。このようなやり方を今回通してしまうこと、およびそれが当たり前となってしまうことに強い危機感を覚えます。

今まで確保してきた透明性を積極的に放棄することに対し不安を覚える。

大学を一部の上層部のものにしないで、全構成員が自由闊達に大学の将来を考えられ、ひいては全構成員、社会に還元される学問の場としてほしいと思った。

東大の運営指針が他大学の運営指針に影響を及ぼすこともあるので、このような不透明なプロセスが本学内のみならず国内の他の国立大学法人にも波及してしまうのではないかと危惧しております。

学生にも情報を！

権力を改めて捉え直した選考を望みます。

本件を個別の事案としてとらえるにとどまらず、大学のガバナンスを正常化する大きな流れの第一歩としていくことが大切だと考えます。

公正公平で、透明性の高い、プロセスを学内の人が皆納得するような総長選挙がなされることを期待します。

透明性が担保されているとは思えず、延期及び情報公開が必要と考える。

透明性のある、誰もが納得する形での総長選考を学生として望みます。

先生方の行動に深い敬意を覚えます。

これほどまで教員の不信感を煽っておきながら投票を強行することは、東京大学にとって何のメリットももたらさないのではないかと。即刻延期を要望する。

私は特に多様性と包摂の観点から総長選考に着目しています。ダイバーシティを推進したい、女性の入学を増やしたいなどと言いながら、学内の権力構造を問い直さないのは、滑稽にすら思えます。

総長選考会議の権限を強めることは、文部科学省の方針であると認識しています。この方針そのものに疑問はありますが、そのような状況の中で、今回の事態が全面的に総長選考会議によって引き起こされたものとみなすのもまた短絡的であると考えます。もっとも、総長選考会議に付与された権限は、「望ましい」総長選考を実現するという目的の限りで負託されたものと考えるべきであり、このアピールは、これを逸脱したものとして是正を求めているものであると理解し、賛同します。

学生の立場から一点付言すると、意向投票において学生は投票権を持たないため、東京大学の構成員である学生の意見を総長選考に反映させるためには、いわば世論を通じて投票権を有する教職員に届けるほかなく、ここにおいて（第2次）総長候補者の氏名が公表されることは欠かせざるものであり、この点につき今回の総長選考プロセスには納得しかねるところです。

（この文章については公開されて差し支えありません）

時代錯誤社のページで初めて候補者を知りました。他に何の情報もなかったもので、気味の悪さを感じました。教員の方々が声を上げられたので、この違和感が正常なものだったのだとわかり、同時に怒りが湧きました。今回の不透明な選考は、東大に関わる人間だけでなく、社会に対する裏切りです。即刻全てを明るみに出し、公正に選考を行ってほしいです。

時局を鑑みても凍結、延期するべきである。

透明性と公平性のある選挙を要求します

公正な選考が行われることを強く願っています。

よりクリアなマニフェストの提示を求めます。

透明性への疑義のみならず、特に公平性については、候補者リストの多様性確保を強く希望します。東京大学という機関があらゆる点で世界に誇れる機関であり続けてほしいと願っています。

透明性と公平性のある選挙を要求します

透明性の確保をよろしくお願いいたします。

所属する学生にとって総長選考は今後の自らの学生生活を左右する重要な事象であるにも拘らず、透明性・公平性が確保されていないのには大学運営全体への不信感と強い不安感を覚えざるを得ません。情報の公開・第三者が介入した形での調査を行い、透明性が十分に確保された上での総長選考の実行を求めます。

人によっては在学中に総長選考がないという面があり、また、判断根拠が乏しくなりがちであるため、学生に総長選考の投票権がないということは、許容できます。（将来的には検討の余地はありますが、）今回は投票できないことに大きな不満はありません。

しかし、一構成員として今回の総長選考は不可解な点多すぎて、今後に不安を覚えます。

民主主義的な選考と、現総長五神氏が理系であることから文系の総長を望む。

文科で学ぶ者として危機感をおぼえます

たなじゅんがんば

「率直かつ多様性の観点なども踏まえた多面的な審議が行われた結果」が、全員理系かつ男性のみ、という多様性が欠如している第2次総長候補者リストに残念を感じます。マイノリティでも共感できる総長像を掲示していただきたいです。

この世界に溢れる不透明さや恣意性を率先して排することが、学問に真摯に向き合う場であり続けることに繋がると考えています。

多様性のある大学になることを望んでいます。

工学部の元総長の方が選考委員長（違っていたらすみません）で、工学部、生産研、外部の医学部の方しか残っていないとのことなので、流石に偏っているのではないかと感じてしまいます。

さすがにヤバいだろ

学生、教職員あってこそその知の場である大学において、その長を私たちに適切な情報開示がなされないまま選出することに対して、疑義の念を抱いています。全ての所属者に対する責任として、プロセスの明示された公正な選出を望みます。

学生に投票権はありませんが、利害関係者として選考過程の公表を望みます。

選考プロセスの一時停止が必要だと思われる

最高学府としての矜持を持った選挙戦を

公正で開かれた選考プロセスを求めます

選考という作業の専門性の高さゆえに、プロセスの適正を求めたいです。

日本の学問、教育を動かす東京大学の総長選挙において不透明な制度が導入されていることを、非常に疑問に思います。文系・理系という垣根を超えて学問が発展する時代にあって、「理系」の教授が主たる候補になっていることは甚だ疑問です。

何よりも公正かつオープンな選考を望みます。

京大化する東大

透明性があることが望ましいがそれは問題ではなく、「不信感が漂っているのに無視して投票を強行する」ことに問題があると思う。選出された総長も学生もそれを拭い去れないまま進めていくのは、手続き上問題があると言えはしないかと考える。

学生が蚊帳の外にいる感がすごい、東大全体の方針を左右する選挙なのに学生に対して情報が提供されないのはいかがなものかと感じました。また一次候補者の氏名を開示するか二次候補者の人数を増やすかして、総長候補者には文系学部や女性の職員がいることをアピールするべきではないかと思います。

透明性も公平性もない。最高学府がやることなのだろうか？

緊急アピールに全面的に賛同します。総長選考過程の不透明さに強い不信感を持っています。立ち上がってくださった先生方を応援しております。

総長による本学の方針の影響を強く受けるはずの学生に対して、投票の後にならなければ候補者すら提示されないということは、いくら学生に投票権がないとは言え、軽視甚だしいと思う。

透明性が無さすぎて、権力から学問を守る最後の砦として高校生の頃から憧れていた東大が今年で消えてしまうと思い、非常に悲しくなりました

法学政治学研究科から誰も立候補していないので、良くない

不透明で、かつ誠実さに欠ける。とりあえず延期して、全てを詳らかに明かしてほしい。

多様性とは一体何なのかを考え直すべきだと思う。

公正明大な大学運営を望みます

大学としてどうあるべきか、1度立ち止まって考えるべきではないだろうか、それがどんな結論に達したとしても

公平・公正な選考を望みます。

透明性を担保して選ばれた方に東大の未来を担っていただきたいです。

来年度は東大を離れる身分ではありますが、それでも他人事ではないと感じています。東京大学憲章に則った公明正大な選考を望みます。

煽りとかではなく、何を考えているのかわからない。

所属学生でありながら、総長選に関する主要な情報を得られないことに大きな違和感を覚えています。質問状の回答にも目を通しましたが、東大の組織とは思えない的はずれな回答に驚愕しました。全てにおいて大学名に恥じない振る舞いをしていただきたいものです。

選考プロセスを可視化していただきたい。

総長選考会議のブラックボックス化に対する有志一同の要請は真っ当なものであり、その現状を黙認した状態で大学のトップである総長が選ばれることは、一学生としてそのプロセス、とりわけ『求められる総長像』の不透明性に対する疑義を抱かざるを得ません。選考過程の透明化・可視化を強く求めます。

東京大学の誇りの下に、宣言通り公正かつ透明性の高い総長選考を求めます。

公正で透明性のある審議を望みます。

本学が頭から腐食していくことに対する必死の自浄として、今回の件をとらえています。

卒業生でもあるのですが、大変残念です。要望が取り入れられることを望みます。

経営協議会が推薦する方が最年長で、第二次候補者に残されていることがどうしても疑問に持ちます。外部からの候補者としてわざと出来レースで入れられたとしか思えません。

【アピール1】のみの賛同です。

総長選考会議が総長選考の権限を有することには異存はありません。しかし、そのプロセスに対して重大な問題が指摘された状況となっている以上、真摯に検証せずに手続きを進めることが本学にとって取り返しのつかない損失となるという危機感をおぼえます。次期総長が学内のリーダーとして正に認められて正当な権力を振るうためにも、今回の総長選考の一時停止が必要と考えます。

大規模部局の総務担当としてコロナ対応の業務が激増したうえ迷走する総長選考事務に振り回されていますが、この先6年間、構成員に信任されたか不明瞭な総長を戴いた職務に就くよりは、総長選考事務の激務をもう一度繰り返したほうがマシです。仮にこのまま予定者が選考されてしまった場合は、白票が相当数に上がることが想定され、「求められる総長像」にある「組織構成員の幅広い支持を受け」に抵触することとなり、選考会議内規第12条(4)その他総長たるに適しないと認められる場合に該当することが危惧されます。この場合は了解事項第7項及び第8項に基づき代議員の選出からやり直すことになるのではないのでしょうか。以降投票前の現状ではやり直す規定がありませんので、有志の先生方のご指摘どおり選考会議及び総長においていったん停止することが順当と思われます。

風通しのよい組織運営を望みます。

有志の皆様の活動には敬服します。

やはり女性と文系が候補にすらいけないというのは、説明出来ないのではないのでしょうか。

選考に思うことは、とにかく、公正な選考であってほしいと思います。一般企業のCEOを決めるのとはやはり性格が異なることをしようとしているはずです。

我々大学側の人間は、大学が公平公正な存在であることを抛り所に行っているからこそ、入試や試験で毅然と、重い線を引けるのだと思います。そこに疑問符がつくのは、率直に、勘弁してほしいという気持ちです。

文系および女性の候補者が一人もいないのは問題だと思います

総長選考の手続きに疑義が生じている状態では、今後の大学運営に多大な支障をきたす。今すぐに投票の延期と情報の公開を行うべき。

新型コロナ対策に乗じて、十分な議論がなされないままトップダウンで物事が決定されていく様は、今回の総長選挙のプロセスと相似形であり、個人的には危惧を抱いております。

既得権、地位、影響力を維持したい人の存在を疑ってしまいます。

選挙という最も透明性が求められているものが、ブラックボックス化している(しているように見える)ことに反対です。

将来は、真実が公表されることになるでしょう。歴史が物語っています。

有期雇用の特任研究員に過ぎない身ですが、世の中に公表されている範囲で本件のことを調べました。私が問題だと感じているのは、第1次候補者から第2次候補者への選考過程が少数で構成された総長選考会議で決まり、その過程が東大正規教職員に対してすらも不透明であるという点です。その点が事実である場合に限り、この緊急アピールを支持します。

東京大学の構成員として、総長選考に対し大きな関心をもって見ております。本部から離れているため、選考の動向等詳細を承知しているわけではありませんが、第2次総長候補者のリストを初めて拝見した際に、非常に大きな違和感（候補者の少なさ、研究分野・性別の偏り等）を抱きました。その違和感の原因が、今回有志の先生方のHPや東大新聞はじめ一連の報道を拝見し、理解できたとともに、今回選考のプロセスにおける問題点を認識いたしました。問題点を精密に指摘し、声を上げていただいた教員有志・理事有志の先生方、ありがとうございます。世界をリードする東京大学の総長が、現状のような歪められた方法で選考されることはあってはなりません。誰もが「納得できる」、公明正大な方法で選考されて初めて、学内外から支持される総長たり得ると思います。そのためには、勇気をもって一度立ち止まり、公正な方法・体制でもって選考が行われることを強く希望します。

総長選考会議における不可解な疑惑（議長の意向による表決、匿名文書による特定候補の除外等）については明確な説明を求める。

今までおかしいと思っていても声をあげられなかったところ、こうして立ち上がっていただいた先生方に敬意を表します。候補者の方には問題があるとは思いますが、総長選考会議によって恣意的に候補者が絞られ、ダイバーシティの欠片もない顔ぶれとなったこと、それが問題ないとして了承されてしまうことに強い危機感を覚えます。

以上